

20世紀都市遺産プロジェクト

The Urban Capital in 20th Century Project

2015年度活動報告

メンバー

中島伸 (助教)	児玉千絵 (D2)
河合孝哉 (M2)	渋谷政秀 (M2)
高橋舜 (M2)	王誠凱 (M1)
富田晃史 (M1)	森下暢彦 (M1)

■ 背景

近世
20世紀
初頭
戦前
戦後
高度
成長期
2000

19世紀（近世）から20世紀（近代）への発展

- ・都市成長の受け皿となる都市基盤の継承
- ・明治期における劇的な都市更新
武家屋敷、三の丸の大街区の活用
鉄道駅周辺の高容積地区の誕生 etc.

都市成長の受け皿として都市基盤形成の展開

- ・都市開発に関する法規や事業の制度整備によるニュータウン建設や駅前再開発
- ・地方都市や農山村を中心とした町並み保存運動、市民主体のまちづくりの展開
- ・デザインガイドラインによる景観誘導・規制緩和誘導による都市再生手法

→都市基盤成熟と共に人口減少・都市縮退の時代へ

1. プロジェクトの概要 / 2. 2015年度の取り組み / 3. 今後

■ 研究の目的

20世紀に創出された都市基盤のうち、今後の人口減少・都市縮退の時代においても使い続けるべき物的環境としての市街地 = 「20世紀都市産」とは？

→都市ストックの評価と更新手法の理論化

1. プロジェクトの概要

2. 2015年度の取り組み

3. 今後

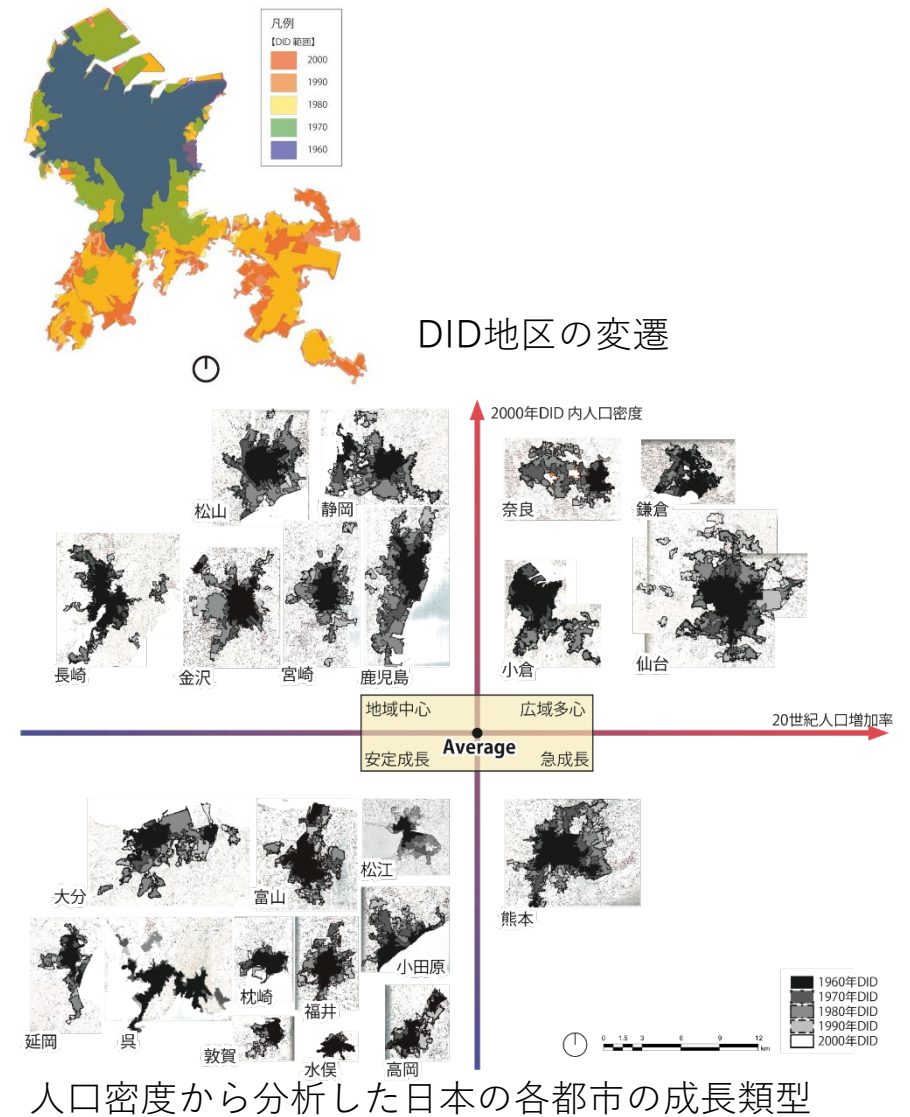
■これまでの取り組み

初年度である2014年度は主に以下の作業を行った。

- I. 全国の都市を対象に、都市ストック形成履歴を密度分析と計画史・事業史レビューにより体系化
- II. 研究協力者とインフラ整備の歴史的評価などについて意見交換

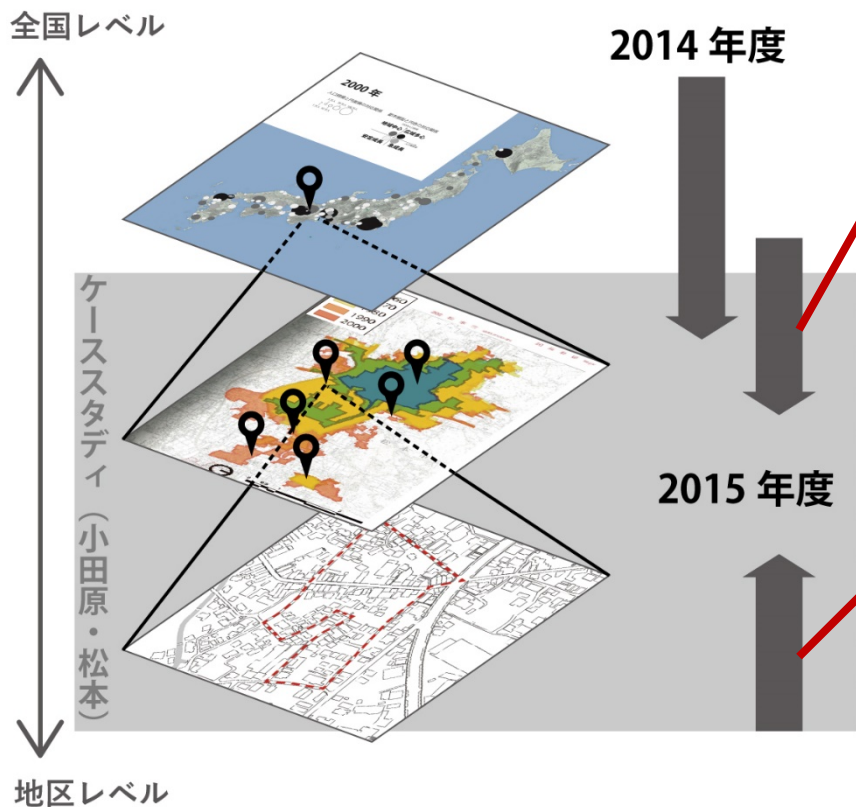


評価軸・視点の整理と「20世紀都市遺産」の概念構築



■ 2015年度の取り組み

2014年度の評価フレームをもとに、市街地の物的環境をよりミクロに取り上げ、フィールドワーク等による分析を行い、計画論へ適用可能な知見の抽出を図った



① マクロ定量分析

都市内部の市街地の形成実態を、密度や基盤量・立地特性などのデータからマクロ的・平面的に分析を行い、類型化を試みた

② 個別地区空間分析

①の分析より対象地区を選定し、市街化履歴などの事前分析とフィールドワークにより空間実態を把握し、更新予測と更新戦略を立案した

■ ケーススタディ

分析にあたり、松本市を対象都市を設定しケーススタディを行った。

松本市概要

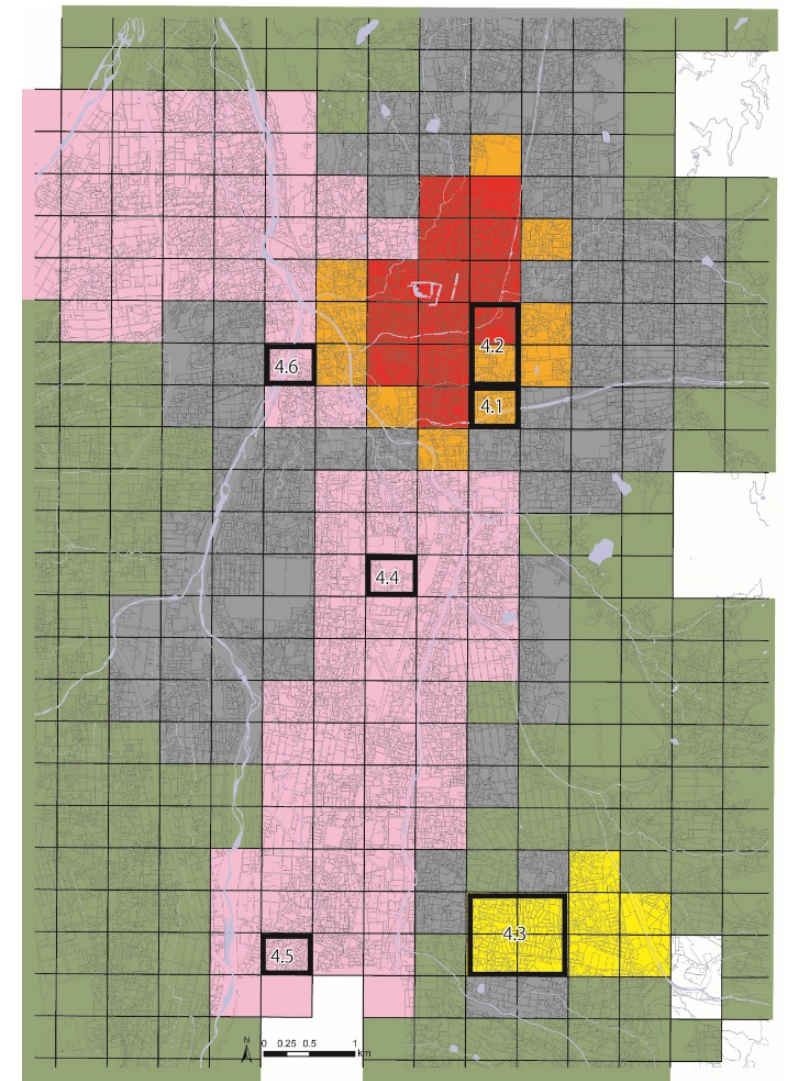
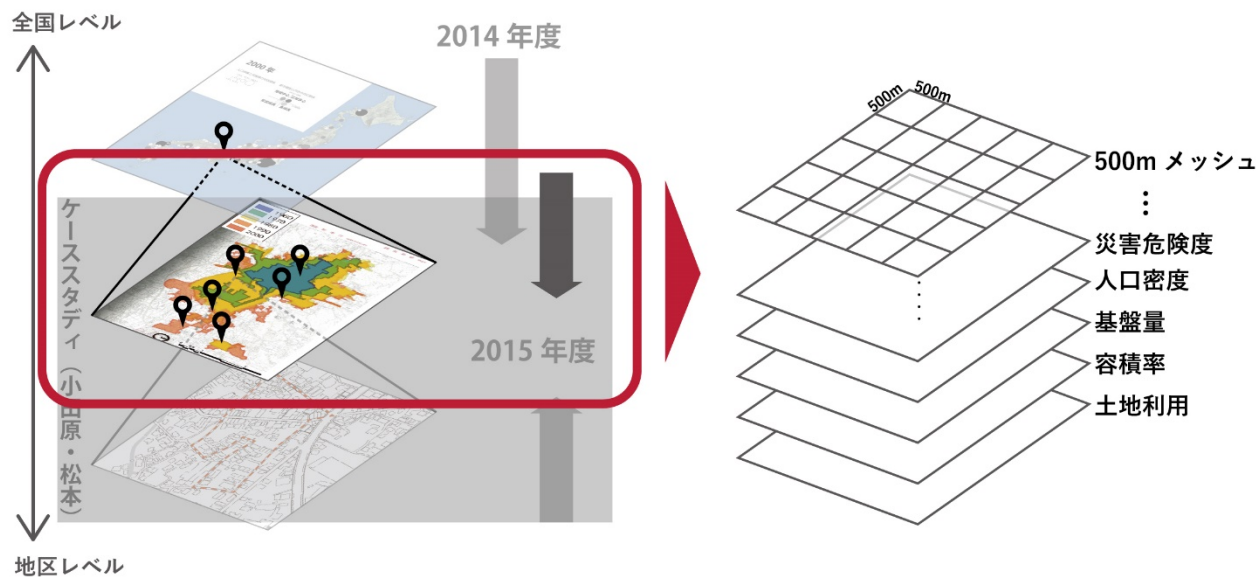
- 人口：約24万人 面積：約980km²
- 特例市/新産業都市/非戦災都市
- 周囲の大都市から比較的独立した立地となっており、扇状地に広がる松本城を中心とした城下町である。長野市と並ぶ規模の都市であり長野県内の商業・工業の中心と言える。



■ ケーススタディ：① マクロ定量分析

まずDIDや人口の変遷、事業史などから都市成長履歴を概観した。

また、松本市全域500mメッシュで、立地や市街化履歴から市街地を類型化し、GISデータを用いて災害危険度や公共サービス、土地利用の観点から分析した。

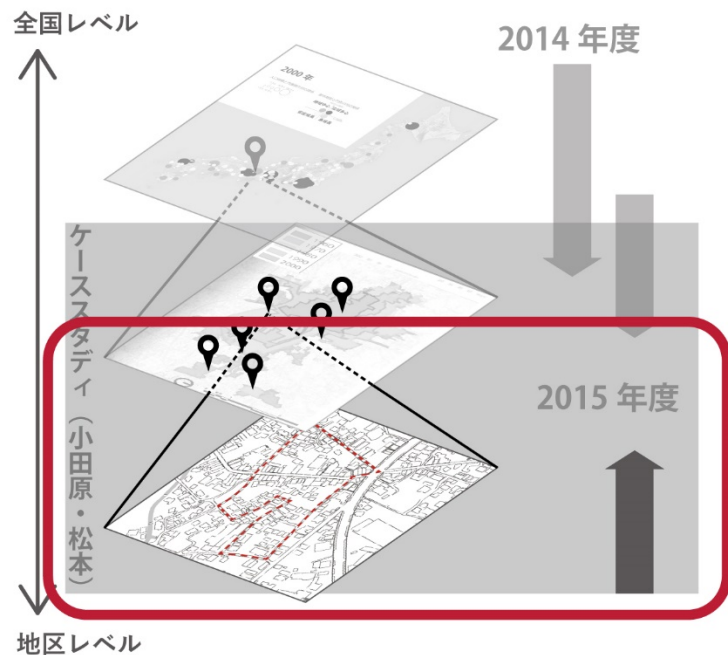


GISデータより市街地を類型化した

■ ケーススタディ：② 個別地区空間分析

i の定量分析で作成した市街地類型から6つの対象地を選定。

現地調査を行い城下町縁辺部、貨物ターミナル周辺市街地、郊外団地、近世街道筋周辺宅地、農住混在市街地について考察を行い、更新予測・更新戦略を立案した。



市街化履歴調査やフィールドワークなどから地区の空間形成要因を分析
→更新予測・更新戦略立案を通して空間から見た市街地類型化に繋がり得る視点を抽出



松本現地調査の様子

個別地区を市街化履歴から読み解き更新の糸口を探ることで都市更新のためのストック評価の論点・視点抽出を試みた

■共同協力研究者との意見交換ミーティング

大学側が弱い実務的な分析・計画技法などを実務経験者との意見交換によって補うことを目指し、定期的にミーティングを行った。

共同協力研究者

渡辺定夫先生（東京大学名誉教授）

西郷裕之さん（市浦ハウジング&プランニング）

平井充さん（住宅・都市問題研究所）

土田旭さん（株式会社都市環境研究所）

谷口雅彦さん（株式会社都市環境研究所）

兼森毅さん（株式会社都市環境研究所）



意見交換ミーティングの様子

■成果

2015年度は、松本市を対象としてミクロ・マクロの両面から都市内の市街地形成の実態について分析を行った。

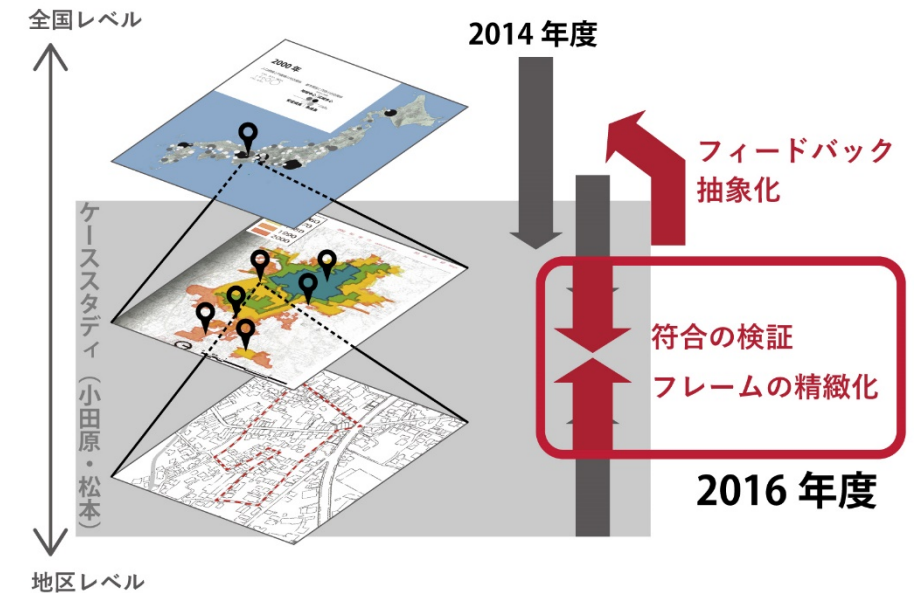
特に個別地区の分析を通じて、都市ストック評価の視点として、「城下町縁辺部」という市街地類型や「農的インフラの都市計画的視点からの活用」といった個別視点を抽出しつつ、各市街地類型の将来像とそのポイントを構想した。

■2016年度の活動予定

当面は、引き続き松本市全体分析による市街地類型の精緻化と、個別地区空間分析結果との符合の検証を進める。

その上で成果をもとに松本市と意見交換を行う。

その後は、評価の視点として浮上しつつある個別テーマを、他都市への適用も含め更に検証と抽象化を行い、「20世紀都市遺産」としての個別評価軸を知見として得ることを目指す。



■募集人数：

参加希望者は随時歓迎。連絡・相談は 20c@ud.t.u-Tokyo.ac.jp へ。

2016年度初回MTG：**4月19日 10-12時**